
日韓文化交流講演会
『俳句列島日本 すみずみ吟遊』
— 俳人 黒田 杏子先生を迎えて —

日本各地に季節を訪ね、人と出会い、歴史と語り、俳句を詠む。俳人、黒田杏子は旅の達人でもある。言葉と旅の極意を、日本の四季の風情と詩情をゆっくり語っていただく。

へ「田杏子 自選十句」
白葱のひかりの棒をいま刻む
磨崖佛おほむらさきを放ちけり
人泊めて氷柱街道かがやけり
能面のくだけて月の港かな
狐火をみて命日を遊びけり
花に問へ「千本の花に問へ
雛の間月山の闇流れけり
いちじくを割るむらさきの母を割る
一介の老女一塊の山櫻
「水の音のあはれを汲みて去る



黒田 杏子 (くろだ ももこ)

1938年東京生まれ。東京女子大在学中より山口青邨に師事。師没後（青邨主宰誌「夏草」終刊ののち）「藍生（あおい）」創刊主宰。第一句集『木の椅子』で、俳人協会新人賞・現代俳句女流賞。第三句集『一木一草』で俳人協会賞。日経新聞俳壇選者。＜季語の現場へ＞の実践として「おくのほそ道」「西国観音札所」「四国八十八ヶ所」などを辿り吟遊、満行している。著書に『黒田杏子歳時記』『布の歳時記』『俳句列島日本すみずみ吟遊』ほか多数。NHKテレビ、ラジオなどでもおなじみの行動俳人である。最新句集は『花下草上』（角川書店）。尚、聞き手をつとめた『証言・昭和の俳句上・下』は貴重な資料となっている。

日 時： 11月11日 土曜日 午後1時30分～3時 先着順入場（無料）
場 所： 中央大学ソウルキャンパス 中央文化芸術館 9階 902号室
地下鉄7号線上道（サンド）駅下車
お問合せ： SJC事務局 TEL（02）739—6962～3
主 催： 中央大学校・SJC教養文化委員会
後 援： 国際交流基金
